

STEP2

基礎

# 強調・同格・挿入・省略・倒置

## 1 強調

### 1 強調構文：〈It is ~ that ...〉

① **It was Mamoru that** I met at the station this morning. 650

今朝私が駅で会ったのは、守であった。

② **It was his bag that** I found in the library. 651

私が図書館で見つけたのは彼のかばんだった。

強調構文は〈**It is [was] ~ that ...**〉の形で、強調したい要素を「~」の位置に置くことによって作られる。強調できるのは、名詞・代名詞または副詞（句・節）。① ②の元の文は以下の通り。

①' ≡ I met Mamoru at the station this morning.

②' ≡ I found his bag in the library.

that の後は、元の文の~が抜けた形が残る。モノ・事や副詞（句 [節]）を強調する場合、that が省略されることもある。

【!】 強調したい部分の名詞・代名詞が〈人〉の場合には、that の代わりに who [かたく whom] を用いることが多い。また、〈人〉以外の場合には、which を用いることもできる。

**It was Yukio who** broke the window this morning.

(≡ Yukio broke the window this morning.)

今朝窓ガラスを割ったのは、由紀夫だった。

**It was Ben and Hanna who** I saw in the amusement park yesterday.

(≡ I saw Ben and Hanna in the amusement park yesterday.)

私が昨日その遊園地で会ったのはベンとハンナでした。

**It is this cap which** she wears in her latest commercial.

(≡ She wears this cap in her latest commercial.)

彼女が最新のコマーシャルでかぶっているのはこの帽子です。

**類例** Was it this morning **that** you met Mamoru at the station?

あなたが駅で守に会ったのは、今朝でしたか。

**It wasn't** this morning **that** I met Mamoru at the station.

私が駅で守に会ったのは、今朝のことではありません。

**【!】** 疑問詞を強調する強調構文を作るときは、〈疑問詞 + is [was] it that + 残り（平叙文の語順）〉。

**When was it that** you met Mamoru at the station?

守に駅で会ったのは（いったい）いつでしたか。

**【!】** 強調したい部分に **when ...**, **because ...** などの副詞節を置くこともできる。〔since 節は置くことはできない；pp.648-649 「英語の原理」〕

**It was** *when he was in Texas* **that** he studied Mexican literature.

(≡ He studied Mexican literature when he was in Texas.)

彼がメキシコ文学の研究をしたのは、彼がテキサスにいた頃だった。

**It was** *because I wanted to do something else* **that** I decided to quit the club. (≡ I decided to quit the club because I wanted to do something else.) 私が部活を辞めたのは、ほかにやりたいことがあったからだ。

### 3 否定の強調: 〈not ... at all〉 〈no ... whatever〉 〈no ... whatsoever〉 など

5 I can't speak German **at all**. 私はドイツ語はまるで話せない。 654

6 I have **no** doubt **whatever** in his sincerity. 655

私は彼の誠実さにはいささかの疑いも持っていない。

at all は not を含む否定文や, no [not any]+ 名詞, nothing などの否定表現を強調して「まったく…ではない」という意味を表す。not と at all は切り離しても, not at all と続けて使ってもよい。at all 以外に in the least を用いてもほぼ同じ意味。

whatever や whatsoever にも同様の働きがある (▶ p.409 否定の意味の強調)。no [not any]+ 名詞, nothing など名詞表現の後に置くことが多い。what ever のように離して綴られることもある

**類例** The movie was **not at all** interesting.

その映画はちっともおもしろくなかった。

John is **not (in) the least** interested in European history.

ジョンはヨーロッパ史にはまったく興味が無い。

There is **no** problem **whatsoever** accepting his offer.

彼の申し出を受け入れることには何の問題もない。

He was **not a bit** worried about his son's future.

彼は息子の将来を少しも心配していなかった。

He looks **not the least bit** tired. 彼はまるで疲れていない様子だった。

**【!】** 否定語 nothing の直後に ever を置いて, 否定を強調することもある。

The car drove away, as if **nothing ever** happened.

何事もなかったかのようにその車は走り去った。

#### コミュニケーション 応答の Not at all.

会話の場面で Not at all. が返答に使われることがある。特に〈主に英・ややかたく〉では感謝の言葉に対する「どういたしまして」という丁寧な返答となることもある。

“Do you mind if I smoke here?” “**Not at all.**”

「ここでタバコ吸ってもいいですか」「ええどうぞ」

“Thank you for having me today.” “No, **not at all.**”

「お招きありがとうございます」「いえ, どういたしまして」

4 動詞・名詞の強調：〈do + 動詞〉〈the very + 名詞〉

7 I **do** agree with you on that matter. 656

その件に関してはまったくあなたに同意します。

8 I was opposed to the plan from **the very** beginning. 657

その計画については、私はスタート当初から反対しておりました。

7のように、動詞の前に do（主語の人称と動詞の時制によって do/does/did）を置いて、動詞の意味を強調する場合がある。相手が疑いを抱いているような場面で「本当にそうなんだよ」と念押ししたいときや、内容に感嘆的な意味を添えたり、命令文で（ためらっている相手に）「ぜひとも」という意味を表したりするときに用いる。

8のように、〈**the** などの限定詞 + **very** + 名詞〉の形で、「まさにその…」という強調の意味を表す。

類例 Hey, it **does** sound like a good idea!

ちょっと、それはとてもいいアイデアだね。

At **that very** moment, he was seen leaving the building.

まさにその時、彼はその建物から出るところを目撃された。



## 5 繰り返しによる強調など

- |    |  |     |
|----|--|-----|
| 9  | I read the textbook <b>again and again</b> .     | 658 |
|    | 私は何度も繰り返し教科書を読んだ。                                |     |
| 10 | The list of candidates goes <b>on and on</b> .   | 659 |
|    | 候補者の名前が延々と羅列されている。                               |     |
| 11 | We <b>talked and talked</b> until late at night. | 660 |
|    | 私たちは夜遅くまで長々と語り合った。                               |     |

同じ語を〈... **and** ...〉の形で反復することで、動作などの反復や継続を表す。「何度も何度も」は over and over again という表現もある。

9' ≡ I read the textbook **over and over again**.

【!】 次のように、by far や very で形容詞の最上級を強める形も押さえておこう。

She is **by far the best** singer that I have ever heard.

彼女は私が今までに聴いたなかで最高のシンガーだ。

This is **the very best** book published in 2021.

これは 2021 年に出版されたなかで最も優れた本だ。

## 2 同格

文中の語句の後に、意味を補足したり言い換えたりするために、文法的に同じ働きをする語句を置くことがある。この関係を**同格**という。



### 1 名詞（句）との同格

**12** My brother, Koichi, will be joining our club next April. 661

私の弟の幸一は、来年の4月に我が部に入部することになっている。

**13** I'm from Texas, the Lone Star State. 662

私は「一つ星州」のテキサス出身です。

**14** I live in the port city of Kobe. 私は港町神戸に住んでいる。 663

**15** She has a dream of being a doctor. 彼女には医師になる夢がある。 664

〈同格〉では、後ろの語（句）が前の語（句）の内容の補足／言い換えという関係になっている。前の名詞（句）との同格で、後ろに名詞（句）を繋げる方法として、コンマ（,）やダッシュ（-）で2つの名詞を並列したり、前置詞の of で繋げる方法などがある。この of は「同格の of」と言われ、「…という」「…である」「…の」と訳される（→ p.617）。

**12**では Koichi が My brother を、**13**では the Lone Star State が Texas をそれぞれコンマで並列して後ろから説明している。

**14**は〈名詞＋ of＋名詞〉の形で of Kobe が前の the port city の内容を説明している。地名などで用いることが多い。

**15**のように〈名詞＋ of＋動名詞（句）〉による同格表現もある。of being a doctor が前の a dream の内容を説明している。この形をとる名詞としては、dream の他に idea（考え）、habit（習慣）、difficulty（困難さ）、hope / chance（見込み）、possibility（可能性）などがある。

**類例** Bob Dylan, a winner of the Nobel Prize, released an album in 2020.

ノーベル賞受賞者のボブ・ディランは、2020年にアルバムを発表した。

I had to give up the idea of studying abroad.

私は海外留学をする計画をあきらめなければならなかった。

〔× give up studying ... としない。give up doing は「すでに始めていること、あるいは慣習的に行っていることをやめる」の意味〕

My uncle Kent lives in New York.

私のおじのケントはニューヨークに住んでいる。

〔上のように My uncle と Kent をカンマを入れずにつなげるケースもある〕

### 3 同格の疑問節

19 I had *no idea* (of) *what was going to happen to us.* 668

私たちの身に何が起こるのか、私にはさっぱり分からなかった。

20 The study gives us *some good examples of* *how language affects the way people think.* その研究は、言語が人間の思考にどのような影響を与えるかについて、いくつかよい事例を提供してくれます。

669

同格の疑問節は、原則〈名詞＋前置詞＋疑問節〉の形で用いられる。前置詞には of, about, (かたく) as to, (かたく) concerning などが使われる。名詞が question や idea の時には、前置詞の代わりにコンマ、コロンの引用符などで並列されることもある。

**類例** Click here for *the information about* *how this survey was conducted.*

この調査がどのように行われたかについての情報は、こちらをクリックしてご覧ください。

For us, it's just *a question of* *when we should take action.*

私たちにとっては、ただいつ行動を始めるのかということが問題だ。

In fact, the answer to *the question*, “**What** is mathematics?” has changed several times during the course of history. 実際、「数学とは何か」という問いに対する答えは、歴史の変遷の中で幾度となく変わってきた。

**【！】** その他〈名詞＋to 不定詞〉による同格表現もある。不定詞の性質を反映し、〈未来志向〉の意味を持つ名詞がこのかたちをとることが多い（→ pp.176-177）。

I don't have *time* *to wash* dishes. 私には皿洗いをする時間はない。

There are *plans* *to rebuild* our school building next summer.

来年の夏に、我が校の校舎を改築する計画がある。

I had *the chance* *to meet* the Governor of Tokyo.

私は東京都知事と面会する機会があった。

〔chance は後ろに of＋動名詞／同格の that 節をとるときは「可能性・見込み」の意味に、to 不定詞をとるときは「機会」の意味になるので注意〕

## 1 語の挿入



21 His latest novel was, **indeed**, beautifully written.

670

彼の最新の小説は本当に見事なできだった。

22 It was, **however**, easier said than done.

671

しかしながら、言うは易く、行うは難しだ。

21の **indeed** や22の **however** は、文の途中に挿入されて情報を追加している。文中に挿入するだけでなく、文頭や文末に置いてもよい。論旨展開のキーとなる表現（ディスコースマーカー）が用いられることが多い（→ pp.670-673）。

21' ≡ **Indeed**, his latest novel was beautifully written.

His latest novel was beautifully written, **indeed**.

22' ≡ **However**, it was easier said than done.

It was easier said than done, **however**.

**類例** I was, **indeed**, so glad to hear that our school band won gold in the competition.

我が校の吹奏楽部がコンクールで金賞を取ったと聞いて、実にうれしかったです。

We should, **however**, not think only of ourselves.

しかしながら、私たちは自分たちのことだけを考えていてはいけない。

## 2 句の挿入

**23** Honesty is, **after all**, the best policy. やっぱり誠実さに勝るものはなしだ。672

**24** Take, **for example**, the recent article in *The New York Times*. 673

たとえば、最近の『ニューヨーク・タイムズ』紙の記事を例に取ってみましょう。

**23**の after all, **24**の for example など、定型の副詞句が挿入される場合もある。文頭や文末に置かれる場合もある。論旨展開のキーとなる表現（ディスコースマーカー）が用いられることが多い（→ pp.670-673）。

**23'** ≡ **After all**, honesty is the best policy.

Honesty is the best policy, **after all**.

**24'** ≡ **For example**, take the recent article in *The New York Times*.

Take the recent article in *The New York Times*, **for example**.

**コーパス** 挿入に用いられる主な定型表現（副詞句）（→ pp.670-673）

【強調】above all（とりわけ）、as a matter of fact（実際には）、in fact（実際のところ）、in particular（とりわけ）、no doubt（疑いもなく）、【譲歩】of course（もちろん）、to be sure（確かに）、【列挙・追加】for example [instance]（たとえば）、【対比】in contrast（それに対して）、on the contrary（それに反して）、**on the other hand**（他方、（その）一方）、

【結論】as a result（結果的に）、in the end（結局は）、after all（（期待・予想などに反して）結局（は））、【時】in the future [past]（将来的に [かつては]）、【転換・言い換え】by the way（ところで）、in a sense（ある意味では）、in general（一般的に）、in short（手短かに言う）、in the long run（長い目で見れば）、on the whole（概して）、so to speak（いわば）、as a rule（概して）、to the best of my knowledge（私の知る限り≡ as far as I know）など

**類例** Studying abroad, **to be sure**, costs a lot of money, but it is worthwhile. 確かに海外留学はお金がたくさんかかるが、その価値はある。

It should be noted, **by the way**, that she has a serious health problem. ところで、彼女が深刻な健康問題を抱えているということは、気に留めておかなければなりません。

Michael Jackson was, **so to speak**, the king of pop.

マイケル・ジャクソンは、いわば、ポップの帝王だった。

I think the recycling will, **in the long run**, help us make the better world. リサイクルは、長い目で見れば、より良い世界を築くの貢献するだろう。

Smoking, **in particular**, will greatly increase the risk of lung cancer. 喫煙は、特に、肺ガンのリスクを大幅に増大する。



## 2 副詞節の中での省略

29 **When** (I was) **young**, I used to play soccer with my friends. 678

若い頃には、僕は友だちとよくサッカーをやったものだった。

30 If you need any help, please let me know. **If** (you do) **not** (need any help), try to finish your paper by tomorrow. 手助けが必要であれば、私に知らせてください。もし大丈夫であれば、明日までにレポートを仕上げるようにしてください。 679

29のように when, while, if, though, unless などの副詞節の主語が主節と同じ場合、副詞節の中の〈主語 + be 動詞〉が省略されることがある。《主に書》や特に指示表現で見られる。

**類例** **When** (you are) **in need**, you can count on me.

助けが必要なら、僕をあてにしてください。

**When in Rome**, do as the Romans do. 郷に入っては郷に従え。[ことわざ]

(≡ *When you are in Rome, do as the Romans do.*)



30 は〈主語 + be 動詞〉の省略ではないが、〈If not, ...〉(そうでなければ…; =otherwise) という形が定型表現として使われる。

**類例** Do you have a copy of the handout? **If** (you do) **not** (have a copy of the handout), I'll give you one.

配布資料はお持ちですか。お持ちでなければ、1 部差し上げます。

**【!】 B, if not A** (A とは言わないまでも B) では、A と B には文法上同じ働きをする語句がくる。

You might lose most, **if** (you do) **not** (lose) **all**, of your property.

君は、全部と言わないまでもほとんどの財産を失うことになるかもしれない。

〔ここでは B が most, A が all で、いずれも名詞〕

※ B, if not A においては、文脈から「(確かに) B だ。いや、ひょっとしたら A かもしれない／たぶん A だろう」(certainly B, and/or maybe/probably A) という意味に解釈されることもある。

Mr. Matsuyama is as good as a native-speaking teacher, **if not** better. 松山先生は、ネイティブの先生並、いやそれ以上かもしれない。

発展 その他の if を用いた定型句

- 1) 「もし…ならば」を意味する if を用いた定型表現には、他に **if so** (もしそうなら), **if possible** (もし可能なら), **if necessary** (もし必要なら), **if any** (もしあるとしても (わずかしかない)) などがある。ここでは if と副詞の間に it is などの〈主語 + be 動詞〉が省略されており、この場合には if 節の主語と主節の主語は一致しない。

You might not have a copy of the handout. **If (it is) so**, I'll give you one. 配布資料はお持ちでないかもしれませんね。そうであれば、1 部差し上げます。

I want to go to see a movie with you, **if (it is) possible**.

できるなら、きみと一緒に映画を観に行きたい。

Add salt and pepper to the steak, **if (it is) necessary**.

必要であれば、ステーキに塩コショウを足してください。

It would be extremely difficult, **if (it is) not impossible**, to find a goalkeeper like her.

彼女のようなゴールキーパーを見つけるのは、不可能でないにしても、かなり難しい。

Most students spend little time, **if (they spend) any**, to study health and PE. もしあるとしても、多くの生徒は保健体育の勉強にはほとんど時間を割かない。

- 2) また、**seldom [rarely](,) if ever**, (仮にあったとしてもめったにない) という表現もある。これは文頭・文中・文尾のいずれでも用いられ、if の後に主語 (+ 助動詞) が省略されている。

**I rarely, if ever**, eat Vietnamese food.

ぼくは、まずめったにベトナム料理は食べない。



### 3 to 不定詞における動詞（句）の省略

31 You may *eat the sandwich*, **if you want to** (eat the sandwich). 680

サンドイッチが食べたかったら、食べてもいいですよ。

32 You can *join us at the party*, **if you'd like to** (join us at the party).

パーティに来たかったら、そうしてもいいですよ。

681

前に出てきた動詞（句）が to 不定詞句で繰り返される場合には、目印となる to を残して、残りの部分が省略されることがある。to 不定詞も省略して if you want としてしまうと、want the sandwich か want to eat the sandwich なのか、どちらが伝えたい意味なのかが分からない。

**類例** I had to *read this book during the weekend*, but I **forgot to** (read this book during the weekend).

私は週末の間にこの本を読まなければならなかったが、そうすることを忘れてしまった。〔あるいは、容易に想像できる動詞句を単純化して、..., but I forgot to **do it**. などとすることもある〕

#### 4 日常表現における省略

- |  |     |
|--|-----|
| 33 (I will) See you later. 後程お会いしましょう。             | 682 |
| 34 (Wait) Just a minute. ちょっと待ってください。              | 683 |
| 35 (It is) Nice to see you. はじめまして。(お目にかかれてうれしいです) | 684 |

日常会話では、省略を伴う慣用表現が使われることが多い。また会話では主語などが省略されることも多い。

**類例** “Get it?” “Got it.” (≡ “I got it.”) 「わかる?」「うんわかった」  
get it は《話》で、(何度も説明を受けた後で)「わかる, 理解する」の意味。

**練習問題 5：省略できる部分には ( ) をつけて、**  
**以下の英文を日本語に訳しなさい**

→解答 p.459

- ① The chair, though it is very old, is still comfortable to sit in.
- ② Some students like studying with their friends, and other students like studying alone.
- ③ You can open the box if you want to open the box, but be careful.

英語の原理 倒置は文脈を理解して初めて理解できる

英語では、「すでに相手が知っている事柄〈旧情報〉」から「相手が知らない・最も伝えたい事柄〈新情報〉」という基本的な情報の流れがある。36の例で言えば、

“I’m joining the basketball club.” “So [joining the basketball club を指している] **am I.**”  
 (新情報) (旧情報)

直前の発言内容である「バスケ部に入部する」が〈旧情報〉となり、それは「私についても同様だ」という〈新情報〉が後に続くという流れになっている。同意表現で倒置が起きるのは、こうした情報の流れの自然さに従っているからである。

**類例** “My brother is a college student.” “**So is my sister.**”

「私の兄は大学生です」「私の姉もそうです」

“I have come to Canada to learn English.” “**So have I.**”

「私は英語を身に付けるためにカナダに来ました」「私もです」

“I don’t like rock music.” “**Neither do I.**”

「僕はロックが好きじゃない」「私もです」

“I couldn’t answer the last question in the exam.” “**Neither could I.**”

「試験の最後の問題が解けなかった」「私も」

“My smartphone is outdated.” “**So is mine.**”

「私のスマホは型落ちです」「私ののもそうです」

“I don’t feel like going out tonight.” “**Neither do I.**”

「今夜は外出したい気分じゃない」「私も」

“I’m not feeling well today.” “**Neither am I.**”

「今日はどうも体調がよくない」「私も」

I don’t eat *natto*, and **neither** does my father.

(≡ 《かたく》 I don’t eat *natto*, **nor** does my father.)

私は納豆を食べないし、父も納豆を食べない。

**【！】** 仮定法における if の省略で、倒置が起きる場合については、→ pp.353-354 参照。

Should you need any help, please let me know immediately.

(《かたく・文》 万が一何か助けが必要ならば、すぐに知らせてくれ。

**類例** **Never** *did I imagine* that I would become a pilot.

(かたく) 自分がパイロットになろうとは、想像したこともなかった。

**Hardly [Scarcely]** had I got back home **when [before]** the telephone rang. (かたい書) 私が家に帰ると、すぐに電話が鳴りだした。

**No sooner** *had he left* the hotel **than** it started to rain.

彼がホテルを出たとたんに雨が降ってきた。

〔「～するとすぐ…」の構文については→ pp.646-647〕

**Not until** he was in his fifties **did** he start to study English.

50代になって初めて彼は英語を勉強し始めた。

**Not only** *is he* a fine singer but (also) an excellent guitarist.

(≡ He is *not only* a fine singer but (also) an excellent guitarist.)

彼は歌がうまいというだけでなく、ギターの腕前も抜群だ。

**Never** *have I seen* so many elephants in one place.

(かたく) そんなにたくさんの象が一か所に集まっているのは、それまで見たことがなかった。

**Little** *did I realize* how quickly we would grow old.

(文) 歳をとるのがこんなに速いとは、気付いてもみなかった。

**Little** *did I think* how lucky I was.

(文) 自分がどれだけ恵まれていたのか、まるで考えていなかった。

**Rarely** *have I seen* you in a suit and tie. (かたく・まれ) あなたがスーツとネクタイを着用しているところは、めったに見たことがない。

**In no other place** *can we enjoy* such a thick steak **than** your restaurant.

あれだけの分厚いステーキをいただけるのは、きみのレストランをおいてほかにはない。

場所や方向を表す副詞（句）が文頭に置かれると、主語と（助）動詞の位置がひっくり返る。副詞句の中では前置詞＋名詞のパターンが多いので気を付けよう。

【!】 上の例文を普通の語順の文にすると次の通り。

42' ≡ The tears of joy came down.

43' ≡ A warehouse stood by the river.

類例 **Here comes the bride.**（主に話）さあ、花嫁のお出ました。

【!】 here や there が文頭に来る平叙文では、〈V＋S〉の語順になることが多い。ただし、この場合も代名詞が主語の場合は **Here he comes.** のようになり、倒置は起こらない。

**Here's a picture of my family.**（主に話）これが私の家族の写真です。

**Here comes our train.**（主に話）ほら、列車が来たよ。

**There goes the monkey!** We have to follow him!

猿があっちに行ってしまう。追いかけないと！

※ there は here に比べて遠くに感じられるものを指す場合に用いられる。

存在を表す **There is [are]** 構文やそのバリエーションも、倒置の一例と考えられる。

Once upon a time, **there lived a boy called John** in a rural village.

（主に書）昔々ある田舎町に、ジョンという名の少年が住んでいました。

原理

この構文は、〈旧情報〉⇒〈新情報〉の流れで新情報である主語の存在や動作に焦点を当てるものであるため、〈旧情報〉である代名詞が主語の場合には、倒置が起こらないためである。

#### 4 目的語・補語が文頭

- 44 **Not a single person** *did I see* at the park. 693  
公園では人っ子ひとり見かけなかった。
- 45 **Lucky is the person who has a true friend.** 694  
幸運なのは真の友人を持つ人である。
- 46 Particularly **disappointing** *was his lack of self-confidence.* 695  
ことのほか残念だったのは、彼の自信のなさだった。

44のように、否定の意味を持つ目的語が文頭に来ると後ろが倒置され、Yes-No 疑問文と同じ語順になる。なお、否定の意味を含まない目的語が文頭に来た場合には倒置は生じずに S + V の語順のままである。

※ I've forgotten her name, but her face *I still clearly remember.*

彼女の名前は忘れてしまったけど、顔は今でもはっきりと覚えているんだ。

〔her face を前に持つてくることで、話題として提示する働きをしている〕

また45 46のように、補語が強調されたり、主語に修飾語句などがついて長くなってしまった文のバランスを整えたい場合などに、補語を文頭に持って行って倒置が起き、動詞＋主語の語順になることがある。